講義計画書

（シラバス）

2025 年度

第 34 期生

【１年次】

宮本看護専門学校

学籍番号	氏名

基礎分野	科学的思考の基盤	配当時期　　１年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	論理学	単位数　　１単位	飯嶋　明彦（16）
		時間数　　１６時間（試験・まとめ含む）	

科目全体のねらい・到達目標

1. 物事を論理的に考察し、客観的に評価できるような、物の見方、考え方、表現力、伝達能力を養う
2. レポートや論文を書く際の基本的法則を学び、それを実践することにより、論理的に思考する能力を養い、文章や口頭でそれを表現することができるようにする

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	9/8	1 限	論理的とはどういうことか	講義・演習	飯嶋
2	9/22	1 限	論点を見つける方法を学ぶ　ワークシート	講義・演習	
3	9/29	1 限	三段論法について学ぶ　　ワークシート	講義・演習	
4	10/6	1 限	帰納法について学ぶ　ワークシート	講義・演習	
5	10/20	1 限	帰納法について学ぶ　　ワークシート	講義・演習	
6	10／27	1 限	作文演習①	演習	
7	12/1	1 限	作文演習②	演習	
8	12/8	1 限	終講試験		

備考

評価方法

筆記試験80％　個人ワーク20％

使用するテキスト

配布資料、ワークシート

参考文献

日本看護協会出版会 「看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン BOOK」

基礎分野	科学的思考の基盤	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	統計学	単位数　1単位 時間数　16時間（試験・まとめ含む）	齊藤　具子（16）

科目全体のねらい・到達目標

1．情報を科学的に整理・分析する方法を学ぶ

2．医療情報や看護情報を効果的に活用する方法を学ぶ

3．コンピューターを操作し、必要なデーターの作成やプレゼンテーションの方法を身につける

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	5/30	3限	1．統計的方法と記述統計(一変量) 1）変数と尺度 2）度数分布表と度数分布図	講義・演習	斎藤
2	5/30	4限	2．統計的方法と記述統計(一変量) 3）代表値（平均値，中央値，最頻値）	講義・演習	
3	6/20	3限	3．統計的方法と記述統計(一変量) 4）散布度（範囲，分散，標準偏差，変動係数）	講義・演習	
4	6/20	4限	4．記述統計(二変量) 1）クロス集計表　2）散布図　3）共分散と相関係数	講義・演習	
5	7/4	3限	5．母集団と標本	講義・演習	
6	7/4	4限	6．統計的推定 1）点推定　2）区間推定	講義・演習	
7	7/18	3限	7．統計的仮設検定 1）t検定 2）カイ二乗検定	講義・演習	
8	7/18	4限	終講試験・まとめ		

備考　個人のPC準備

評価方法

筆記試験、 課題レポート　より総合的に評価

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　　基礎分野「統計学」、別巻「看護情報学」

参考文献

基礎分野	科学的思考の基盤	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	教育学	単位数　1単位 時間数　16 時間（試験まとめ含む）	小野 明日美（16） （筑波大学）

科目全体のねらい・到達目標

1. 教育学の基礎を学び、自他の成長を促す教育の役割を理解する

2. アンドラゴジーへの視点を学び、教育指導に役立てる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	10/14	1 限	教育とは何か 子ども観と発達、社会の中の教育と看護	講義・演習	小野
2	10/21	1 限	教育を成り立たせるもの コミュニケーションとしての教育、他者との関わり	講義・演習	
3	10/28	1 限	養護、看護・ケア・教育との違い 教育による発達の理論	講義・演習	
4	11/25	1 限	学びの場、教育の場の変動 家庭と学校	講義・演習	
5	12/2	1 限	教育の目標と評価 教育の担い手	講義・演習	
6	12/9	1 限	ジェンダーとセクシュアリティ 特別ニーズ教育・インクルージヴ教育	講義・演習	
7	12/16	1 限	キャリア教育 生涯学習、成人の学び	講義・演習	
8	12/23	1 限	終講試験・まとめ		

備考

評価方法

筆記試験　課題レポートから総合的に評価

使用するテキスト

医学書院　　系統看護学講座　基礎分野 「教育学」

参考文献

基礎分野	人間と生活・社会の理解	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	倫理学	単位数　1単位 時間数　30 時間（試験・まとめ含む）	曾根　杏樹（30） （筑波大学大学院）

科目全体のねらい・到達目標

1. 倫理学の基礎知識（倫理学的思考とは）について学ぶ
2. 現代における生命及び医療に関する倫理的な課題を理解する
3. 医療における倫理的判断や行動について協議できる
4. 患者の権利擁護（アドボカシー）をめざした専門職としての看護師の行動について討議できる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	5/12	4限	倫理学とは	講義	
2	5/19	4限	倫理学の考え方	講義	
3	5/26	4限	ナラティブ倫理	講義	
4	6/2	3限	生命倫理の原則	講義	
5	6/16	4限	情報と倫理	講義	
6	6/23	4限	生殖倫理	講義	
7	6/30	4限	死と倫理	講義	
8	7/7	3限	先端医療と倫理	講義	
9	9/8	4限	医療資源と保険制度	講義	
10	9/22	4限	看護倫理の基礎	講義	
11	9/29	3限	専門職としての看護師	講義	
12	10/6	4限	看護師の倫理と法	講義	
13	10/17	4限	日常的葛藤とどう向き合うか	講義	
14	10/20	3限	倫理的課題へのアプローチ	講義	
15	10/27	3 限	まとめ・終講試験	試験	

備考

評価方法

筆記試験　課題・グループワーク　から総合的に評価

使用するテキスト

・医学書院　別巻　看護倫理、配布資料

参考文献

基礎分野	人間の生活・社会の理解	配当時間　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	心理学	単位数　1単位 時間数　16 時間（試験含む）	常木　暎生（16）

科目全体のねらい・到達目標

心理学の基礎的理論を学び、人の心と行動を深く理解する基礎的能力を養う

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4/16	3限	心理学とは 感覚と知覚	講義・演習	常木
2	4/16	4限	記憶の働きと発達 忘却の過程と条件、記憶の変化と工夫	講義・演習	
3	5/7	3限	心理学における学習とは 学習に関連する諸理論、学習に影響する諸条件	講義・演習	
4	5/7	4限	思考の作用と思考力の発達 言語とコミュニケーション	講義・演習	
5	5/21	3限	自己とパーソナリティ	講義・演習	
6	5/21	4限			
7	6/4	3限	知能、人格、性格とは、知能検査、性格検査、適正検査	講義・演習	
8	6/4	4限	終講試験・まとめ		

備考

評価方法

筆記試験

使用するテキスト

有斐閣 「心理学・入門 」心理学はこんなに面白い 改訂版

参考文献

基礎分野	人間の生活・社会の理解	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	社会学	単位数　1単位 時間数　16時間（試験・まとめ含む）	小笠原　尚宏（16） （常磐大学）

科目全体のねらい・到達目標

1. 社会学一般の基礎理論・方法を学ぶ
2. 社会学と保健医療・看護との接点を学ぶ

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4/15	1限	社会学とは 社会学の基礎概念	講義・演習	小笠原
2	5/13	1限	保健医療と社会学	講義・演習	
3	5/20	1限	健康病気と社会学① 健康病気の新しい捉え方	講義・演習	
4	5/27	1限	健康病気と社会学② ストレッサーとストレス対処	講義・演習	
5	6/3	1限	健康病気の社会格差	講義・演習	
6	6/17	1限	地域社会と保健医療	講義・演習	
7	6/24	1限	ケア論の社会的意味	講義・演習	
8	7/1	1限	終講試験・まとめ		

備考

評価方法

筆記試験　課題レポートから総合的に評価

使用するテキスト

晃洋書房　大学生のための社会学入門

参考文献

基礎分野	人間と生活・社会の理解	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	人間関係論 心を育てるグループワーク	単位数　1単位 時間数　30時間 （試験含む）	正保　春彦（20） （茨城大学） 長谷川　恵子（10）

科目全体のねらい・到達目標

1．構成的グループエンカウンター、インプロなどのグループワークを通して人間理解、共感力、表現力、ソーシャルスキルなどを身に着け、看護師としての人間関係を形成する能力を育成する。

2．グループ活動を通して、協調性と責任の大切さを意識できる

3．全体行動を通して、良好な人間関係を築くための自己課題が持てる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4/11	1限	1、他者理解・関係づくりⅠ	演習	正保
2	5/9	1限	2、他者理解・関係づくりⅡ	（グループ	
3	5/16	1限	3、ソーシャルスキルⅠ	ワーク）	
4	5/23	1限	4、ソーシャルスキルⅡ	講義	
5	6/20	1限	5、身体表現		
6	7/18	1限	6、言語表現		
7	9/12	1限	7、共感力Ⅰ		
8	9/19	1限	8、共感力Ⅱ		
9	9/26	1限	9、他者理解・自己理解Ⅰ		
			10、他者理解・自己理解Ⅱ		
10	10/10	1限	まとめ/テスト		
11	5/8	3限	集団行動演習	講義	長谷川
12		4限半	・集団行動の価値、集団行動から学べること	演習	
13	5/14	1限	・集団に馴染めるようになるためのポイント		
14		2限半	・「集団行動」の演技構成とグループワーク		
15	5/16	3限	各グループ「集団行動演技」発表		
		4限	振り返り（演技発表のビデオを見る）		
			レポート提出		

備考

評価方法

筆記試験50%　レポート・態度評価50%

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　基礎分野「人間関係論」

参考文献

基礎分野	人間と生活・社会の理解	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	英語Ⅰ	単位数　1単位 時間数　16 時間(試験・まとめ含む)	城倉　純子（16）

科目全体のねらい・到達目標

英文に親しみ、読解力を維持し、国際社会に適応できる語学力の基礎を身につける

1. 健康や医療、福祉に関連する英文を読み内容を理解する

2. 米国の医療語や医療に関連した米文化についての理解を深める

3. 医療・福祉に偉大な貢献をした外国の人々の業績文献に触れ、医療従事者としてのモチベーションを高める

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	5/8	1限	1. 英語学習についてのオリエンテーション （英語と日本語、英文法の復習、筆記体ほか）	講義・演習	城倉
2	5/15	1限	2.「キュアとホスピタリテイの英語Ⅰ」	講義・演習	
3	5/22	1限			
4	5/29	1限			
5	6/19	1限			
6	7/3	1限			
7	7/24	1限			
8	9/11	1限	終講試験・まとめ		

備考

評価方法

筆記試験100点

使用するテキスト

弓プレス「キュアとホスピタリテイの英語Ⅰ」

参考文献

基礎分野	人間の生活と・社会の理解	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	健康科学	単位数　1単位	長谷川　恵子（15）
		時間数　15 時間	

科目全体のねらい・到達目標

生涯にわたる積極的な生活スタイルを身に着けるために自己の健康を考慮した身体運動を科学し自己管理能力を高めるよう学ぶ

1. 生涯にわたる自己の健康管理とスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を習得する
2. 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る
3. 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を身に付ける

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	11/26	4 限	【視聴覚室→3F 講堂】 1. 運動やスポーツにおける健康・安全の確保 2. 熱中症の分類と運動時の対策 3. スポーツ傷害とスポーツ現場での応急処置 4. 体幹年齢チェック＆体幹トレーニング 5. 猫背・巻き肩改善プログラム	講義 演習	長谷川
2 3	12/5	3 限 4 限	【江戸崎体育館】 1. 科学的根拠を踏まえた効果的なストレッチ 2. 卓球 3. ヘルスバレーボール	講義 演習	
4	12/15	2 限	1. 体力テスト（上体起こし・腕立て伏せ）　【講堂】 2. ボッチャ	演習	
5 6	1/9	3 限 4 限	1. バドミントン　【江戸崎体育館】 2. バスケットボール （ハンドリング・ドリブル・シュート・ゲーム1Q=3分）		
7	1/27	3 限 4 限半	1. 4チーム対抗 運動会　【江戸崎体育館】 2. 評価表まとめ		

備考

① 学校指定のトレーニングウエア着用
② 運動するのにふさわしい身だしなみ（装飾品は外す・髪の長い人はまとめる）
③ 個人の準備物：A4クリップボード・筆記用具・飲み物・タオル・アルコール除菌
④ 体育館へはバス移動・・・・「江戸崎体育館」

評価方法

＊授業評価表・・・試合結果・技術テスト・授業態度を授業ごとに評価（自己及び教員）
【各授業 20 点満点×7 コマ＝140 点満点・・・これを 100 点換算】

使用するテキスト

配布資料

参考文献

基礎分野	人間と生活・社会の理解	配当時期　　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	国語文章論	単位数　　1単位 時間数　　16 時間(試験・まとめ含む)	飯嶋　明彦（16）

科目全体のねらい・到達目標

1. 言語運用とは何かを理解し、「使える日本語」を習得する
2. 母語、日本語を改めて自覚的に向き合う姿勢を確立する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4/14	1 限	書くことの意義	講義	飯嶋
2	4/21	〃	文章の方 形式段落・意味段落	講義	
3	5/12	〃	文章の種類 主観的な文と客観的な文	講義	
4	5/19	〃	話す力	講義	
5	5/26	〃	挨拶、敬語の役割 敬語を使った文章	講義	
6	6/2	〃	伝える力	講義	
7	6/23	〃	わかりやすく伝える	講義	
8	6/30	〃	終講試験・まとめ		

備考

評価方法

筆記試験、課題・レポートより総合的に評価

使用するテキスト

実教出版　日本語表現＆コミュニケーション

参考文献

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年前期	担当者 （担当時間数）
科目名	解剖生理学Ⅰ	単位数	1単位	江原　千東（10）
教育内容	呼吸と血液のはたらき	時間数	30時間（試験別）	宮本　和宜（10） 岩田、増尾（10）

科目全体のねらい・到達目標

人体を構成する各器官の正常な構造（形態）とその形成過程及び主なはたらき（機能）を理解する

1. 呼吸器系の構造とガス交換のしくみについて説明できる
2. 循環器系の構造と血液循環のしくみについて説明できる
3. 呼吸器、循環器疾患がある対象への観察技術が習得できる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当	
1 2 3 4 5	5／13 5／20 5／27 6／3 6／17	2限	第３章　呼吸と血液のはたらき　p、97～ １、呼吸器の構造 ２、呼吸 ３、血液	講義	江原	p、97
6 7 8 9 10	5／14 5／28 6／18 6／25 7／2	3限	第４章　血液の循環とその調節　p、150～ １、循環器系の構成 ２、心臓の構造 ３、心臓の拍出機能 ４、末梢循環系の構造 ５、血液の循環の調節 ６、リンパとリンパ管	講義	宮本和	p、150
11 12 13 14 15	6／25 7／3 7／7 	1限 2限 3限 4限 2限	看護師として学ぶ　解剖生理学(呼吸と循環) 事例検討 観察技術フィジカルイグザミネーション(呼吸器) 観察技術フィジカルイグザミネーション(循環器) 	演習	岩田 増尾	講義 演習 演習 演習

備考

評価方法

筆記試験100点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　人体の構造と機能 「解剖生理学」

参考文献

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期　　1年前期	担当者（担当時間数）
科目名	解剖生理学Ⅱ	単位数　　1単位	岡田　浩介（12） 宮本　和宜（10） 砂長、古畑（8）
教育内容	栄養の消化と吸収 体液の調節と尿の生成	時間数　　30時間 （試験別）	

科目全体のねらい・到達目標

人体を構成する各器官の正常な構造（形態）とその形成過程及び主なはたらき（機能）を理解する

1．消化器系の構造と栄養素を取り込んで利用する仕組み（消化・吸収）について説明できる

2．腎・泌尿器系の構造と腎臓のはたらき、体液の調節について説明できる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2 3 4 5 6	4/15 5/13 6/17 	3限 4限 3限 4限 3限 4限	第2章　栄養の消化と吸収　p、58～ 1、口・咽頭・食道の構造と機能 2、腹部消化管の構造と機能 （1）胃の構造・機能 （2）小腸の構造・機能 （3）栄養素の消化と吸収 （4）大腸の構造・機能 3、膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	岡田
7 8 9 10 11	9/10 9/17 9/24 10／1 10／8	3限	第5章　体液の調節と尿の生成　p、209～ 1、腎臓 2、排尿路 3、体液の調節 （1）水の出納 （2）脱水 （3）電解質の異常 （4）酸塩基平衡	講義	宮本（和）
12 13 14 15	9/24 10／8 	1限 2限 1限 2限	観察の技術　フィジカルイグザミネーション　（消化器） 演習	演習	砂長 古畑

備考

評価方法　　筆記試験　100点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　人体の構造と機能　　解剖生理学

参考文献

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年前期	担当者（担当時間数）
科目名	解剖生理学Ⅲ	単位数	1単位	宮本　泰典（16）
教育内容	身体の支持と運動 情報の受容と処理	時間数	30時間 （試験別）	石井　徳恵（12） 岡野　江衣（2）

科目全体のねらい　・到達目標

人体を構成する各器官の正常な構造（形態）とその形成過程及び主なはたらき（機能）を理解する

1．骨格・筋の構造とはたらき（機能）（運動と代謝）について説明できる

2．脳・神経系の構造とはたらきと機能について説明できる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2 3 4 5 6 7 8	5/20 5/27 6/3 6/24 7/1 7/22 9/9 9/16	4限	7章　身体の支持と運動　p、282～ 1、骨格とはどのようなものか 2、骨の連結 3、骨格筋 4、体幹の骨格と筋 5、上肢の骨格と筋 6、下肢の骨格と筋 7、頭頚部の骨格と筋 8、筋の収縮 9、運動と代謝	講義	宮本（泰）
9 10 11 12 13 14	9/18 9/25 9/30 10/9 10/16 10/23	1限 1限 4限 1限 1限 4限	第8章　情報の受容と処理　p、358～ 1、神経系の構造と機能 2、脊髄と脳 3、脊髄神経と脳神経 4、運動機能と下行伝導路 5、感覚機能 6、体性感覚と上行伝導路 7、痛み（疼痛） 8、脳の統合機能	講義	石井（徳）
15	10／22	4限	演習		岡野

備考

評価方法　筆記試験100点　※解剖見学　試験テストなし

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　人体の構造と機能　解剖生理学

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	解剖生理学Ⅳ	単位数　1単位	原　成輝（8） （子どもメンタルクリニック新大塚） 解剖見学（4）（東邦大学） 宮本　和宜（12） 後藤久美子（4）助産師臨床経験有 岡野江衣（2）看護師臨床経験有
教育内容	内臓機能の調節 身体機能の防御と適応 生殖・発生と老化のしくみ 解剖見学 解剖生理学総まとめ	時間数　30時間 （試験別）	

科目全体のねらい・到達目標

人体を構成する各器官の正常な構造（形態）とその形成過程及び主なはたらき（機能）を理解する

1．自律神経のはたらきと内分泌系のはたらきについて説明できる

2．生体の防御機構について説明できる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2 3 4 5 6	10／15 10／22 10／29 11/26 12／3 12／10	3限	内臓機能の調節　p、240 1、自律神経による調節 2、内分泌系による調節 3、全身の内分泌腺と内分泌細胞 4、ホルモン分泌の調節 5、ホルモンによる調節の実際第 生体の防御機構　p、440 1、非特異的防御機構 2、特異的防御機構（免疫）	講義	宮本（和）
7 8	10／17 10／23	2限 2限	生殖・発生と老化のしくみ　p、461～499 1、受精と胎児の発生 2、成長と老化	講義	後藤
9	10/14	2限	解剖見学事前学習		岡野（江） 古畑 後藤
10 11	10/24	3・4限	解剖見学	東邦医大	
12 13 14 15	11/27	1限 ～ 4限	解剖生理学総まとめ 呼吸・循環・内分泌・ホルモン・脳神経系		原
	3/10	1限	終講試験		

備考

評価方法　筆記試験　100点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　人体の構造と機能「解剖生理学」

参考文献

専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能	配当時期　1年次前期	担当者 （担当時間数）
科目名	生化学	単位数　1単位 時間数　30時間 （試験含む）	戎野　棟一（30） （東邦大学名誉教授）

科目全体のねらい・到達目標

生物・生命現象の基礎を学び人体の機能を理解する

1. 生体を構成する物質の種類と性質を理解する

2. 生体内の物質代謝を理解する

3. 遺伝情報の保存・発現について理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4/17	2 限	生化学とは	講義	戎野
2	4／24	〃	アミノ酸の性質　糖質の定義と種類		
3	5/8	〃	糖質の性質		
4	5/15	〃	脂質と核酸の種類と性質		
5	5/22	〃	酵素		
6	5/29	〃	糖質の代謝		
7	6/19	〃	脂質の代謝		
8	6/26	〃	蛋白質の代謝		
9	7/3	〃	核酸の代謝と遺伝情報		
10	7/17	〃	遺伝情報の発現		
11	7/24	〃	ビタミン　ホルモン		
12	9/11	〃	体内の水と酸・塩基平衡		
13	9/18	〃	体内の無機質の種類と役割		
14	9/25	〃	臓器の生化学		
15	10／9	〃	まとめ　　終講試験		

備考

評価方法

筆記試験

使用するテキスト

ヌーベルヒロカワ 「わかりやすい生化学　第5版」

参考文献

専 門 基 礎 分 野	人体の構造と機能	配当時期　　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	栄養学	単位数　　1単位 時間数　　16時間(試験・まとめ含む)	平山　麻里子（16）

科目全体のねらい・授業目標

栄養や食事療法の基本的知識を修得することで人の生活や健康状態に適切な食生活の援助方法や実践できる基礎的能力を身につける

1. 栄養学と看護の関係、栄養補給法について理解する各栄養素の体内における役割と臨床的意義を理解する
2. 栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝について理解する
3. 現在の日本における食生活の問題点を理解する
4. 栄養状態の評価判定について理解する
5. ライフステージと栄養について理解する
6. 疾患を治療するためのコントロール食と、栄養管理、栄養指導の基本について学ぶ

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2	1/30	3限 4限	人間栄養学と看護 （チーム医療　地域医療における栄養ケア）	講義	平山
3 4	2/13	3限 4限	生命維持のための栄養素の役割　栄養素の種類と働き	講義	
5 6	2/20	3限 4限	栄養状態の評価と判定 日常生活と栄養を理解する （食文化の多様性、日本の食生活の形成と変遷など）	GW	
			（現代日本の健康・栄養問題）（食事アンケート分析）	講義	
7	2/27	3限	ライフステージと栄養 疾病と栄養　療養生活と栄養（治療による回復を促すための食事を理解する）栄養成分コントロール食、 糖尿病食品交換表の活用 栄養・食事指導の基本	講義・演習 講義・演習	
8	2/27	4限	終講試験・まとめ		

備考

評価方法

筆記試験　課題レポートを総合的に評価

使用するテキスト　1. 医学書院 「系統別看護学講座　専門基礎　栄養学」

参考文献

専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	配当時期　1年次後期 単位数　1単位	担当者（担当時間数） 小川　恭喜（16） （茨城大学）
科目名	微生物学	時間数　16時間 （試験・まとめ含む）	

科目全体のねらい・到達目標

微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解するとともに免役及び感染症について理解を深め感染症対策の基礎的知識を養う

1. 微生物の種類と特徴及び生体に及ぼす影響を理解する。
2. 病原微生物による感染症について理解する
3. 感染症対策の基本を理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	5/12	3限	イントロダクション　微生物学の基礎 微生物の定義・範囲　微生物学の歴史	講義	小川
2	5/19	3限	微生物の性質と特徴 細菌（形態・特徴、構造と機能、分裂と増殖） ウイルス（形態・特徴、構造と機能、増殖）		
3	5/26		真菌（形態・特徴、構造、増殖）		
4	6/2	3限	主な病原微生物（分類）　病原微生物と感染症		
5	6/16	3限	微生物の感染症　感染源の感染経路		
6	6/23	3限	微生物の感染症　感染機構 （定着・増殖・毒素生産/侵入・細胞内増殖）		
7	6/30	3限	生体防御機構　免疫 （自然免疫、獲得免疫：液性免疫・細胞性免疫） ワクチンと予防接種		
8	9/5	3限	終講試験		

備考

評価方法

筆記試験　100点

使用するテキスト

1. 医学書院　系統看護学講座　「微生物学」

参考文献

専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	配当時期　1年次後期 単位数　1単位	担当者（担当時間数） 澤田　達男（10） 岡田　浩介（10）（筑波大学） 田辺　裕二郎（10）（宮本病院）
科目名	病態学Ⅰ	時間数　30時間 （試験別）	
教育内容	病理学基礎 呼吸器　循環器		

科目全体のねらい・達成目標：

1. 臓器、組織、細胞の変化としての病変について学習し疾病の成り立ちや症状を理解する
2. 呼吸機能障害を起こす、呼吸器疾病の病態生理、検査、治療を理解する
3. 循環機能障害を起こす、循環器疾患の病態生理、検査、治療を理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2 3 4 5	9/16 9/16 9／30 9/30 10／7	1限 2限 1限 2限 1限	病理学とは 第 2 章　細胞・組織の損傷と修復、炎症 1、細胞・組織の損傷と適応 2、細胞・組織の損傷に対する反応 第3章　免疫、移植と再生医療 第 4 章　感染症 第 5 章　循環障害 第 6 章　代謝障害 第 7 章　老化と死 第 8 章　先天異常と遺伝性疾患 第 9 章　腫瘍	講義	澤田
6 7 8 9 10	10／21 11／25 11／25 12／2 12／2	3限 3限 4限 3限 4限	呼吸器系疾患の診断と治療 （1）症状とその病態生理 （2）診断・検査・治療処置 ・感染症　・間質性肺疾患・気道疾患 ・肺循環疾患・呼吸不全 ・肺腫瘍	講義	岡田
11 12 13 14 15	9/5 9/26 10/17 11/28 12/12	3限	循環器系疾患の診断と治療 （1）症状とその病態生理 （2）治療・検査・処置 ・虚血性心疾患 ・心不全・血圧異常・不整脈 ・弁膜症・心膜炎・心筋疾患・先天性心疾患 ・動脈性疾患静脈性疾患	講義 講義	田辺
	12/22	2限	終講試験		

備考

評価方法　筆記試験 100 点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　疾病の成り立ちと回復の促進「病理学」

医学書院　系統看護学講座　成人看護学「循環器」「呼吸器」

参考文献

専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	配当時期　1年次後期 単位数　1単位	担当者（担当時間数）
科目名	病態学Ⅱ	時間数　30時間 （試験別）	吉田　正（16）（宮本病院） 宮本　和宜（10）（宮本病院） 内山　聡（4） （内山歯科医院）
教育内容	消化器 腎・泌尿器		

科目全体のねらい・到達目標

1　消化器機能障害を起こす、消化器疾病の病態生理、検査、治療を理解する

2、消化器系に影響を及ぼす口腔（歯）の機能と構造と歯科・口腔系の病態生理、検査、治療を理解する

3. 腎・泌尿器機能障害を起こす、腎・泌尿器疾患の病態生理、検査、治療を理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2 3 4 5 6 7 8	9／9 9／16 9／30 10／7 10／14 10／28 12／9 12／16	3 限	消化器系疾患の診断と治療 （1）症状とその病態生理 （2）治療・検査・処置 ・食道の疾患・胃、十二指腸疾患 ・腸および腹膜疾患 ・腸管ポリープ ・大腸がん ・肛門疾患 ・肝臓、胆嚢の疾患・膵臓の疾患	講義	吉田
9 10	10／23 10／30	1限	口の機能と構造　解剖p、58 歯科・口腔系の疾患・検査・治療 各疾患の理解齲歯　歯周病 口腔外科　口蓋裂	講義	内山
11 12 13 14 15	12／17 1／7 1／14 1／21 1／28	3 限	腎・泌尿器系疾患の診断と治療 （1）症状とその病態生理 （2）治療・検査・処置 腎疾患 1）　腎不全・慢性腎不全・慢性腎臓病 2）ネフローゼ症候群・糸球体腎炎・腎障害 3）尿細管間質性腎炎・腎血管病変・尿細管機能異常 泌尿器系疾患　病態生理、症状　治療、検査 1）尿路結石・尿路感染症　2）前立腺肥大症 3）膀胱癌・睾丸腫瘍	講義	宮本和
	2／16	3 限	終講試験		

備考

評価方法

筆記試験 100 点　※運動器看護は試験なし

使用するテキスト

成人看護学「消化器」「歯・口腔」別巻「臨床外科各論」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	配当時期　1年次後期 単位数　1単位	担当者（担当時間数）
科目名	病態学Ⅲ	時間数　30時間（試験別）	宮本　泰典（12） 塚本　浩平(4) 江原　千東(6) 稲垣　雅春(4) 増尾真由美(2)看護師臨床経験有 岩田　彩華(2) 看護師臨床経験有
教育内容	運動器 リハビリテーション		

科目全体のねらい・到達目標

1、運動器機能障害を起こす、消化器疾病の病態生理、検査、治療を理解する

2、治療としてのリハビリテーション

3、観察技術を用いて、生体に起きていることに気づき、症状をきたす原因を疾病のメカニズムから考え、理解を深めることができる(臨床推論)

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2 3 4 5 6	10／7 10／14 10／21 10／28 12／9 12／16	4限	運動器疾患の診断と治療 （1）症状とその病態生理 （2）治療・検査・処置 外傷性の運動器疾患 ・骨折・脱臼・捻挫および打撲 ・神経損傷 ・筋・腱・靭帯などの損傷 内因性の運動器疾患 骨・関節の炎症性疾患 骨腫瘍および軟部腫瘍 代謝性骨疾患	講義	宮本
7 8	12/3 12/10	4限 4限	第1章　リハビリテーション総論 1、リハビリテーションの概念 2、リハビリテーションの領域 3、チームアプローチとしてのリハビリテーション リハビリテーションの実際＜事例＞		塚本
9 10 11	11/25 12／2 12／9	2限	外科総論 外科医療の基礎外科治療の適応		江原
12 13	12/18	3限 4限	外科的治療の適応となる主な呼吸器疾患①肺がん 外科的治療の適応となる主な呼吸器疾患②		稲垣
14 15	12/19	3限 4限	臨床推論とは 事例検討(観察演習、GW、ジグソー法での発表会)	講義・演習	増尾 岩田
	1/9	2限	終講試験		

備考

評価方法　筆記試験　※消化器看護は試験なし

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　成人看護学「消化器」「腎・泌尿器」

参考文献

専門基礎分野	疾病の成り立ちと 回復の促進	配当時期　1年次後期 単位数　1単位	担当者（担当時間数） 浅田　（6）（宮本病院）
科目名	病態学Ⅸ	時間数　15時間 （試験含む）	岡田　浩介（4）（筑波大学） 宮本　泰典（2）（宮本病院） 塚本　浩平（3）（宮本病院）
教育内容	老年期疾患・治療		

科目全体のねらい・到達目標

高齢者の疾患と特徴

1．老年期によくみられる機能障害について身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、検査・治療の方法を理解する

2．老年期に特徴的な疾患の病態生理を説明することができる

3．高齢者に対する治療と予防の概念、看護活動の基本を説明することができる

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	12/1	4 限	1．認知機能障害のある高齢者 1）うつ ①うつ病とは　②臨床的特徴 2）せん妄 ①せん妄とは　②臨床的特徴	講義	浅田
2	12/8	〃	3）認知症 ①認知症とは　②認知症の症状		
3	12/15	〃	③認知症の病態・診断・治療 ④認知機能および生活機能の評価		
4 5	1/20	3 限 4 限	老年症候群　呼吸器・循環器	講義	岡田
6	1/13	4 限	高齢者の疾患の特徴　運動器	講義	宮本（泰）
7	1/23	3・4 （15:55 まで）	高齢者のリハビリテーション	講義・演習	塚本
8	1/30	2 限	終講試験		

備考

評価方法

筆記試験 100 点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　老年看護学「老年看護学病態・疾患論」

別巻「リハビリテーション看護」

参考文献

専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
		単位数　1単位	佐藤 真弓（14）（宮本病院）
科目名	薬理学	時間数　16時間（試験・まとめ含む）	来栖 理恵（2）（宮本病院）

科目全体のねらい ・到達目標

薬物療法の適正な使用法、安全な薬物療法のための基礎的知識を養う

1. 薬理学の基礎知識を理解する

2. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	9/11	3限	薬理学を学ぶにあたって ①薬物による病気の治療 （薬物とはなにか・薬物の使用目的・薬物療法における看護師の役割） ②薬理学とはなにか	講義	佐藤
2	9/18	〃	薬が作用するしくみ（薬力学） ①薬物受容体 （受容体の種類・受容体と薬物の相互作用） ②イオンチャンネル ③酵素 ④トランスポーター		
3	9／25	〃	薬の体内挙動（薬物動態学） ① 薬物の投与経路（経口、非経口） ② 体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）	講義	佐藤
4	10/9	〃	③ 薬物の相互作用		
5	10/16	〃	薬の体内挙動（薬物動態学） 治療において重要となる薬物動態の指標 （血中濃度と半減期、耐性と依存、薬物の効果に対する因子、薬物使用の有益性と危険性）	講義	佐藤
6	10／23	〃	薬と法律 ① 医薬品に関する法律 （劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・覚せい剤） ② 新薬の開発 消毒薬とは		
7	10／30	3限	抗感染症薬 消毒薬の種類と応用　消毒薬の適応	講義	来栖
8	12/4	2限	終講試験・まとめ		佐藤

備考

評価方法
筆記試験 100点

使用するテキスト
1. 医学書院 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進「薬理学」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	医療概論	単位数　1単位 時間数　15時間 （試験含む）	宮本　二郎（6） （宮本病院） 岡本　泰子（9） 看護師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

1. 医療の発達の背景とその変遷を学び、今日の医療の現状について理解する
2. 最新の医療について学び、医の倫理を看護者として理解する
3. 社会と健康「健やかに生きる」について考え、健康延伸の対応を理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4／10	3 限	医学と医療	講義	宮本
2	4／17	1 限	医学の歴史		
3	4／24	1 限	医学と医療の違い 科学技術の進歩と現代医療 現代医療の新たな課題		
4	5／12	2 限	生活と健康（健康とは・ヘルスプロモーション）社会と健康	講義	岡本
5	5／20	3 限	フレイル	GW	
6	5／27	〃	老いに向き合う	レポート	
7	6／3	〃	保健・医療・介護を取り巻く環境		
8	6／18	2 限	終講試験　まとめ		

備考

評価方法

筆記試験 90%　レポート・受講態度 10%

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　健康支援と社会保障制度「医療概論」
系統看護学講座　看護学概論

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	配当時期	1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	地域理解演習	単位数	1単位	髙城　利恵（15） 看護師臨床経験有
		時間数	15時間	

科目全体のねらい　・到達目標

「安心して暮らせる　やさしいまち　稲敷」を実現するための取り組みとそこで暮らしている人々の暮らしを知る。

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2	4/11 4/21	4限 4限	1. 稲敷市の現状と地域課題について考える 2. 地域理解論演習準備	講義 GW	髙城
3 4 5 6	4/22 または 4/23	8h	【演習】 グループごとの計画をもとに事業を見学することで「安心して暮らせるやさしいまち稲敷」を実現するための「自助」「共助」「公助」の現状を把握する。 また、行われている事業に参加している人とコミュニケーションをとり、住民のニーズや困りごとを知る。	演習	
7 8	4/28	1限 2限（半コマ）	グループ発表	GW 発表	

備考

評価方法

レポート・記録

使用するテキスト

指定なし。

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	基礎看護学	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	看護学概論	単位数　1単位	岡本　泰子（30）
		時間数　30 時間	看護師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

1. 看護の歴史の変遷を学び、看護の現状や課題が説明できる
2. 看護理論を学び、対象のニーズ・反応を看護実践に活かす情報として使用できる
3. 看護学における倫理の考え方や実践における倫理の重要性について説明できる
4. 保健医療福祉分野の連携の中で、看護の独自性や役割について説明できる

回	日	時間	学習内容	方法	担当
1	4/10	1 限	看護の概念（看護とは何かを学習する） ケアする人の在り方	講義・GW	岡本
2	5/21	2 限	看護の変遷（日本・世界）	講義 レポート①	岡本
3 4	6/4	1限 2限	看護における倫理　事例学習	講義	増尾
6 7 8	7/23	1限 2限 3限	病院で療養する対象とその環境を知る 東京医科大学霞ヶ浦病院見学・体験	見学 体験	
5 9 10 11	6/24 9/10 10/7 10/22	2 限 2 限 2 限 2 限	看護理論（看護についての主要な理論・概念） ナイチンゲール・ヘンダーソン理論の重要性・活用法 A：看護の対象の理解・国民の健康状態 B:個人の理解 （発達段階・健康状態・治療・生活と療養の場）	講義・GW レポート②	岡本
12	11/26	1 限	看護職の資格と法律・社会保障と健康の維持	講義	平野
13	12/3	1 限	看護提供の仕組み（チーム医療・協働・連携） 看護の行われる場（看護はどこで必要とされるのか）	講義	岡本
14	12/10	1 限			
15	1/14	1 限	看護理論ゴードン他 アセスメントの枠組み （看護理論に基づく枠組み・看護診断を導くための枠組み）	講義	岡本
16	1/27	2 限	テスト/まとめ		

備考

評価方法

筆記試験　80%　課題提出・グループ討議参加状況 20%

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　基礎看護学「看護学概論」、 日本看護協会出版「看護師倫理綱領」
日本看護協会出版 「看護の基本となるもの」、 サイオ出版「実践に活かす看護理論」
現代社「ナイチンゲール看護論入門」「看護覚え書」

参考文献

専門分野	基礎看護学	配当時期　　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	看護技術Ⅰ	単位数　　1単位	岡野　江衣（4） 看護師臨床経験有
教育内容	共通基本技術 （技術とは、コミュニケーション、感染対策技術）	時間数　　30 時間 （試験含む）	髙城　利恵（12） 看護師臨床経験有 後藤　久美子（13） 助産師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

1. 看護技術を看護実践の中で活用する意義と看護実践の基盤となる考え方を理解できる
2. 看護の場におけるコミュニケーションのあり方について学び、コミュニケーション技術の実践への活用方法を理解する
3. 医療安全に関する基本的な知識・技術(感染対策)について学ぶ
4. 患者と自己の安全を守るための基本的な知識・技術を習得する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4/15	2 限	技術とは　なぜ看護師が技術を学ぶのか 知識・技術・技能の関連　看護技術の独自性	講義	岡野 江
2	4/18	3 限	看護実践とクリティカルシンキング　技術習得の過程 私たちの目指すゴール	講義・演習	岡野 江
3	4/16	1 限	コミュニケーションとは コミュニケーションの種類 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	講義	後藤
4	4/16	2 限	医療におけるコミュニケーション　看護面接	講義	
5	4/21	3 限	良好なコミュニケーションに必要な技法　質問技法	講義・演習	
6	4/24	3 限	積極的傾聴と共感	講義	
7	5/7	1 限	良好なコミュニケーションに必要な技法 関係構築の技法 アサーティブなコミュニケーション	講義	
8	5/29	3 限	プロセスレコード	講義	
8.5	5/29	4 限		講義	
9.5	6/19	3 限	感染防止の基本的知識 看護師が感染防止する意義　感染経路　感染予防策	講義	髙城
10.5	6/19	4 限	スタンダードプリコーション 標準予防策　個人防護用具　手指衛生	講義・演習	
11.5	7/1	2 限	手洗い・手指消毒の実際	講義・演習	
12.5	7/8	3 限	個人防護具の着脱方法 感染性医療廃棄物の取り扱い	演習	
13.5	7/8	4 限	無菌操作	講義・演習	
14.5	7/17	4 限	滅菌・消毒・洗浄とは　　操作方法	講義・演習	
15	9/5	4 限	終講試験		

備考

評価方法　筆記試験、課題

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ　　医学書院　看護コミュニケーション

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	基礎看護学	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	看護技術Ⅱ	単位数　1単位	増尾　真由美（5） 看護師臨床経験有 岡野　江衣（24） 看護師臨床経験有
教育内容	共通基本技術 （観察・記録・報告、学習支援、バイタルサイン）	時間数　30 時間 （試験含む）	

科目全体のねらい・到達目標
1. 看護における観察・記録・報告の意義を学び、効果的な技術を習得する
2. 看護における学習支援の意義を学び、効果的な教育・指導技術を習得する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	4/21	2 限	看護における観察の意義・目的 看護師が情報を収集する目的	講義 GW	岡野江
2	4/24	4 限	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント フィジカルイグザミネーションとは （問診・視診・触診・打診・聴診） 情報の種類（S・O 情報）	講義 体験学習	
3	5/15	4 限	バイタルサインの観察とアセスメント 恒常性の維持（ホメオスタシス） 脈拍・呼吸数・血圧	講義・演習	岡野江
4 5	5/23	3 限 4 限	血圧測定 バイタルサイン技術	演習 演習	
6	7/4	1 限	看護記録とは 個人情報保護法　守秘義務・法的責任について	講義	岡野江
7	9/5	2 限	看護記録の構成	講義　個人ワーク	
8	9/22	3 限	看護過程とは 看護過程から学ぶアセスメント(情報収集と情報分析) クリティカルシンキング	講義	
9	10/1	1 限	情報の整理（情報収集の枠組み） 情報分析	講義 個人学習	
10 11	7/7 〃	1 限 2 限	バイタルサイン測定技術試験 〃	技術試験 ワーク	岡野江
12	10/1	2 限	看護における報告・連絡・相談 意義・目的・方法・留意点	シュミレーション	岡野江
13	11／28	1 限	看護における学習支援 健康に過ごすための教育・指導 外来・入院時・退院時の学習支援目的(一次・二次・三次予防)	講義	増尾
14 14.5	12／4 12／4	1限 3 限 （半）	学習支援の実際	個人ワーク GW	
15	12/16	2 限	終講試験		

備考

評価方法　筆記試験、課題、

使用するテキスト　　医学書院　系統看護学講座　基礎看護学　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	基礎看護学	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	看護技術Ⅳ	単位数　1単位	岡野二三男(21) 看護師臨床経験有 藤沢　椋太（2） （介護医療院） 岡野　江衣（2） 看護師臨床経験有 後藤　久美子（2） 助産師臨床経験有 塚本　浩平（4） （宮本病院）
教育内容	活動と休息・罨法	時間数　30 時間 （試験含む）	

科目全体のねらい・到達目標
1. 看護における活動・休息の意義を理解できる
2. 対象を生活者と捉え、必要な援助方法を判断し安全・安楽に行える看護技術を習得する
3. 罨法の目的・生体への影響を学び効果的な罨法の方法を習得する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	5/28	2 限	活動の意義とは・良い姿勢の条件	講義	岡野二
2	6/16	2 限	ボディメカニクス・援助のための身体の使い方	講義・演習	岡野二
3	6／18	4 限	人間工学の基礎知識・良肢位	講義	藤澤
4	6/30	2 限	安楽な体位（ポジショニング）同一体位による弊害	講義・演習	岡野江
5	7/2	2 限	体位と移動の基礎知識① 体位変換の種類と援助方法	講義・演習	岡野二
6	7/7	3 限	体位と移動の基礎知識② 体位変換技術の実践	演習	岡野二
7	7/22	2 限	移動（歩行・移乗・移送）の基礎知識 （杖・車椅子・ストレッチャー）	講義・演習	岡野二
8	9/19	4 限	安全・安楽・自立を考えた移動援助 （ストレッチャー・車椅子）	演習	岡野二
9	9/26	4 限	安全・安楽・自立を考えた移動援助 （杖歩行、車椅子）	演習	岡野二
10	10／15	3 限	関節可動域（ROM）良肢位 運動障害がある患者への移乗技術	演習	塚本
11	10/29	4 限	移動介助・事例から考える援助方法・発表	GW	岡野二
12	12/12	4 限	休息・睡眠の基礎知識アセスメントと援助方法①	講義	岡野二
13	12/17	4 限	休息・睡眠の基礎知識・アセスメントと援助方法②	講義	岡野二
13.5	12/22	4 限	ドラッグロックを考える（レポート）	個人ワーク	岡野二
14.5	10/23	3 限	罨法とは　目的・方法・留意点	演習	後藤
15	1/8	1 限	終講試験		

備考

評価方法　筆記試験、課題

使用するテキスト
医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ
医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第 2 版

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	基礎看護学	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	看護技術Ⅴ	単位数　1単位	野原　恵美（8） 看護師臨床経験有
教育内容	病床環境 衣生活・身体の清潔	時間数　30 時間 （試験含む）	岡野　江衣（20） 看護師臨床経験有 増尾　香代子（2）

科目全体のねらい・到達目標

1. 看護における環境の捉え方の視点を理解する
2. 環境条件を理解し、安全・安楽・自立を考えた環境の調整方法について理解する
3. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔の効果と全身への影響を理解する
4. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学ぶ
5. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の手順を学ぶ

回		日	学習内容と成果	方法	担当
1	4/17	3 限	環境とは　人と環境　療養生活と環境	講義 GW	野原
2	4/17	4 限	健康生活の維持・増進や疾病の回復のための 生活環境のアセスメント 入院生活における病床環境の調整、整備の方法	講義 GW	
3	5/21	1限	ベッドメイキング 環境整備の実際 実際にベッド周りの環境を整備してみよう	講義 演習	
4	5/26	2 限	臥床患者のシーツ交換	講義・演習	
5	5/30	1 限	口腔ケア	講義	増尾
6	5/30	2 限	皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助　清潔の援助の基礎知識(目的・効果) 患者に応じた援助の決定と留意点	講義	岡野江
7	7/2	4 限	病床での衣生活援助　衣服を用いることの意義 病衣の選び方　病衣・寝衣の交換	講義 演習	岡野江
8	7/8	1 限	全身清拭	講義・演習	
9	7/8	2 限	全身清拭	講義・演習	
10	7/17	1 限	手浴・足浴	講義・演習	
11	7/17	3 限	洗髪	講義・GW	
12	7/22	3 限	その人のその時々に合わせた援助の決定と留意点	講義・GW	
13	7/24	3 限	その人らしさの援助の決定と留意点	講義・GW	
14 14.5	10/3	1・2 限	実技試験(全身清拭)	技術試験 ワーク	
15	10/15	2 限	終講試験		

備考

評価方法
筆記試験、課題

使用するテキスト
医学書院　系統看護学講座　基礎看護学　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	基礎看護学	配当時期　　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	看護技術Ⅵ	単位数　　1単位	古畑　貴子（30）
教育内容	栄養と食事　　排泄	時間数　　30 時間(試験含む)	看護師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

1. 人間にとっての栄養と食事の意義を理解する
2. 栄養状態及び摂食能力のアセスメント方法を理解する
3. 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事と栄養摂取方法を考え、効果的な援助方法を習得する
4. 人間にとっての排泄の意義を理解する
5. 排尿・排便に関するメカニズム・アセスメント方法を理解し、対象者に応じた排泄援助を習得する
6. 食事・排泄の援助について看護の基本姿勢や役割について理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	5/7	2 限	食事とは　栄養と食事の意義 食事援助の基礎知識	講義 GW	古畑
2 3	5/22 5/22	3 限 4 限	食生活変更の必要性・患者認識・行動のアセスメント 食生活の基本的援助　看護の役割 食事摂取の介助	講義	
4	6/16	1 限	麻痺患者・嚥下機能障害・視覚障害のある患者への食事介助	演習	
5	7/1	3 限	非経口栄養法　　経腸栄養・静脈栄養	講義	
6	7/2	1限	経管栄養法　　胃管挿入・固定・確認方法　　挿入中の看護	演習	
7	9/4	3 限	排泄とは　　排泄の意義　　メカニズムとアセスメント　援助方法		
8	9/8	2 限	失禁の種類と援助方法　　看護の役割	講義	
9	9/12	3 限	排泄援助　　床上排泄（便器・尿器）　　トイレ・ポータブルトイレ	演習	
10	9/12	4 限	排便を促す援助　　浣腸・摘便	演習	
11	10/1	4 限	オムツ交換　陰部洗浄　　事例をもとに援助を考える	GW	
12 13	10/8 10/8	1 限 2 限	オムツ交換　陰部洗浄　　事例をもとに援助を考える	演習	
14	11/28	4 限	導尿　　一時的導尿・持続的導尿　B-T 挿入中の患者の看護	講義	
15	12/5	1 限	終講試験		

備考

評価方法

筆記試験、課題

使用するテキスト

医学書院　系統別看護講座　基礎看護学　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	基礎看護学	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	臨床看護総論	単位数　1単位	増尾　真由美（15） 看護師臨床経験有
教育内容		時間数　15 時間 （試験含む）	

科目全体のねらい・到達目標

看護の基本である、多様な健康上のニーズをもつあらゆる発達段階の人々に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスの学習をめざす

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2	1／22	1 限 2 限	臨床看護学総論とは 看護とは「看護であるものとないもの」 看護するために必要な要素	講義 GW	増尾
3 4	1／26	3 限 4 限	自分の看護を振り返る 「5つのものさし」から自己の行った看護の意味づけ、不足していた部分、新たな看護を考察する。	個人ワーク グループ内で発表 全体発表	
5 6	2／13	1 限 2 限	臨床判断のプロセス 事例をもとに考える（症状、時期、治療の看護）心筋梗塞	ロールプレイ 講義	
7	2／19	3 限	事例をもとに考える（症状、時期、治療の看護）脳梗塞 看護倫理	講義	
8	2／25	2 限	終講試験		

備考

評価方法

筆記試験・レポート

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　基礎看護学「臨床看護総論」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	地域・在宅看護論	配当時期　1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	地域・在宅看護論概論	単位数　1単位	髙城　利恵（15）
教育内容		時間数　15 時間（試験含む）	看護師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

地域で暮らす全ての人々の健康と暮らしを支える看護の役割を考える基盤とする

地域に暮らす人々の暮らしを理解する。

人々の暮らしを支える地域包括ケアシステムと地域共生社会について理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	5/9	2 限	地域の中での暮らしと健康	講義	髙城
2	5/15	3 限	1．人々の暮らしの理解	講義・GW	
3	5/16	2 限	GW：暮らしを理解する		
4	5/19	2 限	2．地域・在宅看護の役割	講義	
5	5/23	2 限	3．暮らしと地域	講義	
6	5/28	1 限	4．暮らしと地域を理解するための考え方	講義	
7	6/18	1 限	5．地域包括ケアシステムと地域共生社会	講義・GW	
			GW：地域を理解する		
	6/25	4 限	終講試験		

備考

評価方法

筆記試験、レポート

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座 「地域・在宅看護の基礎」「地域・在宅看護の実践」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	地域・在宅看護論	配当時期　1年次後期	担当者 （担当時間数）
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	単位数　　1単位	和田　聖子（4） 平山　松枝（6） 増尾　真由美（5） 看護師臨床経験有
教育内容	地域・在宅看護の対象 暮らしを支える看護・制度など	時間数　　15時間	

科目全体のねらい・到達目標

1、事例を通して地域における暮らしを支える看護を理解する。

（1）在宅（地域）で対象が暮らしていくために必要な社会資源の活用について考えることができる。

（2）在宅（地域）で対象が暮らしていくために、「暮らしの環境を整える」「家族を支える」「ライフステージに応じた」の視点で必要な看護を考えることができる。

（3）地域・在宅看護を支える制度について理解する。

2、地域における災害対策を理解する。

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2	12/12	1・2限	地域におけるライフステージに応じた看護 助産院アテールの事例	講義	和田
3	1/8	3限	事例を用いて地域における暮らしを支える看護を理解する。 事例提示・グループワーク	GW	増尾
4	1/16	1限	地域・在宅にかかわる制度とその活用 （1）介護保険・医療保険制度 （2）地域・在宅看護にかかわる医療提供体制 （3）訪問看護の制度	講義	平山
5	1/16	2限	グループワーク・発表	GW・発表	平山 増尾
6	1/23	1限	地域の災害対策・調べ学習	GW	平山 増尾
7	1/23	2限	発表・地域での暮らしにおける災害対策	発表 講義	平山 増尾
8	1/30	2限	終講テスト		

備考

評価方法

筆記試験・レポート

使用するテキスト　医学書院　系統看護学講座 「地域・在宅看護の基礎」
医学書院　系統看護学講座 「地域・在宅看護の実際」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	成人看護学	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	成人看護学概論	単位数　1単位	岩田　彩華　（30）
教育内容		時間数　30 時間(試験含む)	看護師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

時代を生きる大人の健康生活を多角的に捉える視点を包括的に理解できる。

成人期にある大人を対象に、その人にとって最適な健康を維持・促進する看護援助を理解できる。

1. 現代を生きる成人期における対象の特徴が理解できる。
2. 生活習慣やライフステージと健康問題との関連を理解できる。
3. 経過別に応じた看護の基本となる考え方や方法論について理解できる。
4. 成人学習の概念と行動変容を促す看護アプローチについて理解できる。
5. 現代社会の成人がその人らしく過ごしていくために必要な社会資源について理解できる。

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	9/10	1 限	成人と生活（成人期の特徴）	講義	岩田
2	9/11	4 限	成人と生活（ライフステージ・発達段階）	講義	
3	9/12	2 限	成人と生活（成人期にある人の生活から捉える健康）	講義	
4	9/17	4 限	生活と健康	講義	
5	9/18	4 限	成人への看護アプローチの基本	講義	
6	9/26	2 限	〃	講義	
7	9/29	2 限	ヘルスプロモーションと看護	講義	
8	10/3	2 限	健康をおびやかす要因と看護	講義	
9	10/9	4 限	さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援(社会資源)	講義	
10	10/15	1 限	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護(急性期)	講義	
11	10/17	1 限	〃	講義 個人・GW	
12	10/21	2 限	障害がある人の生活とリハビリテーション(回復期)	講義 個人・GW	
13	10/28	2 限	慢性病とともに生きる人を支える看護(慢性期)	講義 個人・GW	
14	10/30	2 限	人生の最期のときを支える看護(終末期)	講義	
15	12/1	2 限	まとめ / 終講試験	試験	

備考

※事前学習、課題あり

評価方法

筆記試験100点、

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　成人看護学[1]「成人看護学概論」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	成人看護学	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	成人援助論Ⅰ	単位数　1単位	増尾 真由美（12） 看護師臨床経験有 岩田 彩華（14） 看護師臨床経験有 井上 桂輔（4）
教育内容	呼吸器・循環器疾患の看護	時間数　30 時間 （試験別）	

科目全体のねらい・到達目標

1. 各疾患患者の特徴と看護の役割を理解する
2. 各疾患患者の主な検査・治療・処置に伴う看護を理解する
3. 各疾患患者の日常生活活動のアセスメント方法を理解する
4. 各疾患患者のそれぞれの年齢に応じた看護問題から看護援助へのプロセスを理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	12／11	1 限	呼吸機能障害のある患者の観察	講義	増尾
2	12／18	1 限	呼吸機能障害のある患者の症状とその看護		
3	1／13	2 限	呼吸機能障害のある患者の検査・治療の看護		
4	1／20	1 限	事例を用いた看護の展開 ・慢性呼吸不全患者の看護		
5		2 限			
6	1／28	1 限			
7	1/26	1 限	循環器疾患のある患者の観察	講義	岩田
8	1/29	3 限	不整脈患者の症状と看護(徐脈)		
9	1/29	4 限	不整脈患者の症状と看護(頻脈)		
10	2/12	3 限	虚血性心疾患患者の症状と看護(狭心症・心筋梗塞) 循環器に必要な検査(十二誘導)		
11	2/12	4 限	心不全患者の症と状看護		
12	2/18	1 限	事例を用いた看護の展開(心不全)		
13	2/24	2 限			
14	10/21	2 限	呼吸器リハビリテーション	講義	井上
15	10/21	3 限	心臓リハビリテーション	〃	

備考

事前学習、事後課題等あり

評価方法

筆記試験 100 点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　成人看護学［呼吸器］、［循環器］

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	成人看護学	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	成人援助論Ⅱ	単位数　1単位	砂長　久枝（16） 看護師臨床経験有
	消化器・運動器疾患の看護	時間数　30 時間 （試験含む）	鈴木里美(6) 吉田友子（8） 看護師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

1. 各疾患患者の特徴と看護の役割を理解する
2. 各疾患患者の主な検査・治療・処置に伴う看護を理解する
3. 各疾患患者の日常生活活動のアセスメント方法を理解する
4. 各疾患患者のそれぞれの年齢に応じた看護問題から看護援助へのプロセスを理解する

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	2/17	3 限	消化器症状とその看護	講義	砂長
2	2/17	4 限	消化器疾患患者の検査と治療の看護		
3	2/18	2 限	消化器疾患の看護（胃癌）		
4	2/18	3 限	消化器疾患の看護（大腸癌）		
5	2/19	1 限	消化器疾患の看護（肝硬変）		
6	2/19	2 限	消化器疾患の看護（事例検討）		
7	2/20	1 限			
8	2/20	2 限			
9	12/5	4 限	運動器疾患患者の基礎知識	講義	鈴木
10	12/19	3 限	運動器症状とその看護		
11	12/19	4 限	運動器疾患患者の検査と治療の看護 運動器疾患の看護		
12	1/ 7	2 限	運動器疾患患者の看護（事例検討・退院支援）	講義	吉田
13	1/15	2 限			
14	1/21	2 限			
15	1/28	2 限			
16	2/24	1 限	終講試験　まとめ		砂長

備考

評価方法

筆記試験 100 点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　成人看護学「消化器」、［運動器」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	老年看護学	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	老年看護学概論	単位数　1単位	平野　真紀子（30）
教育内容		時間数　30時間	看護師臨床経験有

科目全体のねらい・到達目標

老年期にある対象と家族、生活環境、ヘルスケアシステムについて理解し、老化と疾患・障害の程度に応じた看護の役割と機能について学ぶ

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	7/18	2限	老いるということ、老いを生きるということ ①加齢と加齢変化・老化②恒常性③流動性知能と結晶性知能④健康寿命	講義	平野
2	9/8	3限	老年期の発達段階	講義	
3	9/10	4限	超高齢化社会と社会保障 ①超高齢社会の現況②高齢者と家族 ③高齢者の健康状態④高齢者の死亡⑤高齢者の暮らし	講義 GW	
4	9/19	2限			
5	9/19	3限			
6	9/22	2限			
7	9/25	4限	1．高齢者の権利擁護 ①スティグマ②エイジズム③アドボカシー 2．高齢者虐待（虐待の種類・虐待の背景など）	講義 GW	
8	9/29	3限			
9	10/3	3限	身体拘束（身体拘束の定義と身体拘束を禁止する規定・身体拘束の例外3原則・身体拘束の現状）	講義 GW	
10	10/3	4限			
11	10/6	2限			
12	10/20	2限	1．老年看護の成り立ち 2．老年看護の役割 ①老年看護の目標②老年看護の特徴	講義	
13	10/20	3限	1．老年看護における理論・概念の活用 （離脱理論と活動理論・サクセスフルエイジング・選択最適化補償理論・ニード論・危機理論・セルフケア理論・コンフォート理論・ストレングスモデルなど） 2．老年看護に携わる者の責務 （高齢者のための国連原則：自立・参加・ケア・自己実現・尊厳）	講義 GW	
14	10/27	2限			
15	10/29	1限			

備考

評価方法

筆記試験点 80 点　課題 20 点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　老年看護学 「老年看護学」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	老年看護学	配当時期　1年次後期	担当者 （担当時間数）
科目名	援助論Ⅰ	単位数　　1単位	高城　利恵　（11） 看護師臨床経験有
教育内容	老年期の疾患 高齢者のヘルスアセスメント	時間数　　15時間 （試験含む）	須磨崎　加寿子（4） （宮本病院）

科目全体のねらい・到達目標

高齢社会と社会保障、保健医療福祉制度について理解する

高齢者のヘルスアセスメントの実際を学ぶ

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1	1/19	2 限	高齢者にかかわる保健医療福祉システム構築	講義	須磨崎
2	1/26	2 限	権利擁護のための制度 成年後見人制度	講義	
3	12/8	2 限	老年看護に求められるものとは	講義	高城
4	12/15	1 限	ヘルスアセスメントの基本	講義	
5	12/19	1限	身体の加齢変化とアセスメント （皮膚とその、視聴覚とその他の感覚器、循環器）	講義・演習	
6	12/22	1 限	身体の加齢変化とアセスメント （呼吸器、消化器、ホルモンの分泌）	講義・演習	
7	12/23	2 限	身体の加齢変化とアセスメント(泌尿器、運動器)	講義	
8	1/6	2 限	終講試験	試験	

備考

評価方法

筆記試験

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座 「老年看護学」、　「老年看護学病態・疾患論」

参考文献

（実務経験のある教員等による授業科目）

専門分野	精神看護学	配当時期　1年次後期	担当者（担当時間数）
科目名	精神看護学概論	単位数　1単位	宮本　真理（10）　宮本病院 石井　竜介（8）　宮本病院 古畑　貴子（12） 看護師臨床経験有
教育内容	精神保健・概論	時間数　30 時間（試験含む）	

科目全体のねらい・到達目標

精神看護学の基本的な考え方と、精神看護を実践するものとしての視点や態度を学ぶ

1. 精神障害とはどのような体験か、当事者の視点に立って理解する。
2. 現代社会における精神保健・看護のニーズの高まりとその背景を知る
3. 精神科医療の正解的な動向と日本の現状をつかむ
4. 精神の健康・不健康とは何か「正常」と「異常」をはかるものさしとなっている「ふつう」のものさしについて考える
5. 精神の健康の定義について学ぶ。精神障害を説明する様々なモデルと、発生のメカニズム、予防と回復への視点を学ぶ
6. 心のはたらきとしくみについて理解する
7. 看護の基本となる人間関係についてシステム論の観点から学ぶ

回	日	時間	学習内容と成果	方法	担当
1 2 3	10/30 12/1 12/15	2 限 2 限 4 限	1. 精神看護学で学ぶこと 1）精神看護学とは何か 2）精神障害をもつ人の病の体験と精神看護 3）「心のケア」と日本社会 4）精神看護の課題	講義	古畑
4	11/26	2 限	2. 精神保健の考え方 1）精神の健康とは	講義	宮本
5	12/5	2 限	2)心身の健康に及ぼすストレスの影響 3）心的外傷（トラウマ）と回復	講義	
6	12/11	2 限	4）精神障害というとらえ方	講義	
7 8 9 10	12/3 12/10 12/17 1/14	2 限	3. 心のはたらきと人格の形成 1） 心のはたらき	講義	石井
			2）心のはたらきと人格の発達（人格（パーソナリティ）自我など）	講義	
			3）よい乳房・わるい乳房―対象関係論 4）ライフサイクルとアイデンティティ（エリクソンの漸成的発達理論）	講義	
			5）愛着と心の安全基地（ボウルビーの愛着理論） 6）自己愛と自己対象体験（コフートの自己心理学） 7）「甘え」理論	講義	
11	12/18	2 限	4. 関係の中の人間 1）システムの中の人間関係	講義	宮本
12	1/8	2 限	2）全体としての家族 3）人間と集団	講義	
13	12/22	1 限	5. 精神を病むことと生きること 1）「病の経験」の理解と手がかり	講義	古畑
14	1/7	2 限	2）精神症状論と状態像	講義	
15	1/19	1 限	講義/試験	講義/試験	

備考

評価方法

筆記試験90 点　　レポート：10点

使用するテキスト

医学書院　系統看護学講座　精神看護学「　精神看護の基礎」「精神看護の展開」

参考文献